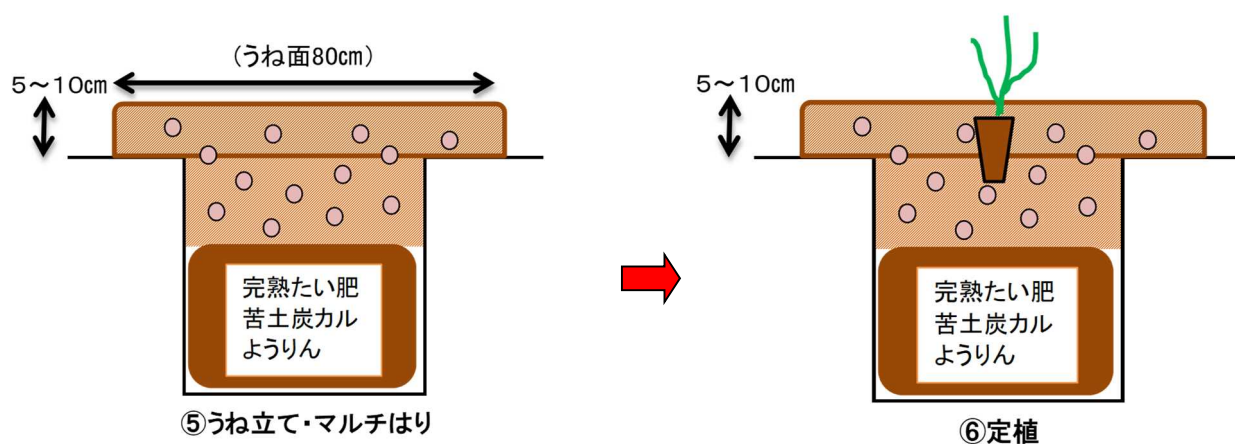


## 6 定植

裁植密度 うね幅 180~200 cm×株間 30 cm 1条植え 1800株/10アール

- (1) うね高は5~10cm程度にする。排水性が劣る場合は20~30cmとする。
- (2) 定植時、雑草防止のため、黒マルチを被覆する。
- (3) マルチ穴は10cm位の大きめな穴を開ける。
- (4) 乾燥と倒伏防止のため5~10cm深に深植えする。
- (5) 定植後、マルチ穴はしっかりと土でふさぐ。



## 7 栽培管理

### (1) 1年目の管理

- ア うね間かん水により、夏期乾燥時にはかん水を行う。
- イ 倒伏防止のため、支柱を立てマイカー線等で支持する。
- ウ 病害虫の薬剤防除は定期的に行う。
- エ 10月末～11月になり茎葉が黄化したら、茎を地際から刈り取りをする。茎葉は刈り取り後、ほ場外に持ち出す。
- オ マルチは年内に剥ぎ取り、ネズミ、モグラの侵入を防ぐ。

### (2) 2年目の管理

- ア 倒伏防止のため2～3m間隔で支柱を立てる。支柱の高さは1.8～2.0m程度。
- イ 支柱にフラワーネット、マイカー線等を2～3段にして張る（1段目の高さは、下から50～60cm）。
- ウ マイカー線を使用する場合は、うね方向へ倒伏しないように、途中に誘引ひもを張る。

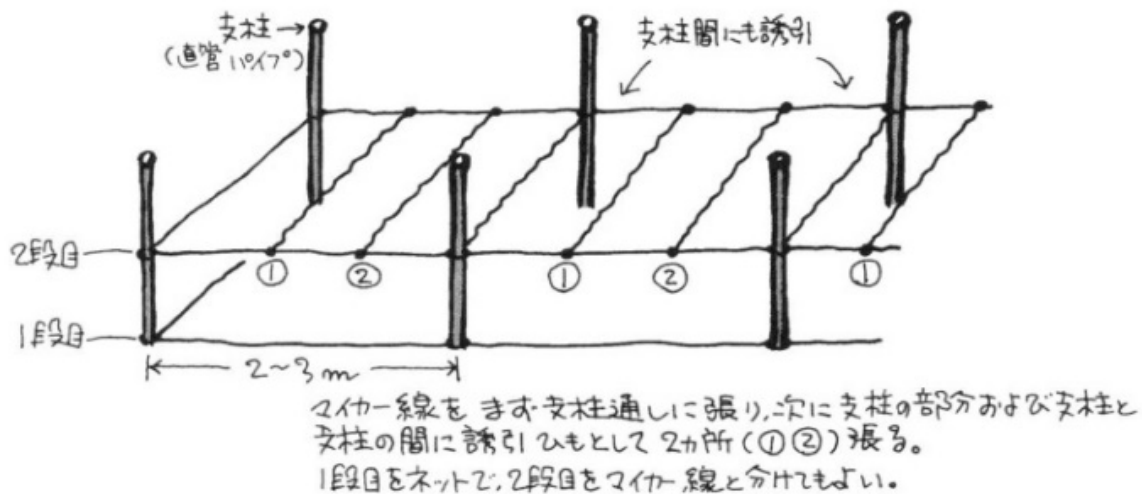


図50 倒伏防止用のマイカー線の張り方

- エ 堆肥は春どり前にうね面上に施用する。施肥は1年目の80%程度を春どり終了後に全面施用する。
- オ 10月末～11月に入ったら、茎の刈り取りを行う。

### (3) 3年目以降の管理

- ア 芽出し肥：春先、芽が出る前に10アールあたり40kgの燐硝安加里をうね面に施用する。
- イ 基肥：基肥は、春収穫打ち切り後にうね間に施用し軽く耕転する。

〈成園の基肥施肥例〉

(kg/10a)

| 肥料名    | 基肥   | 追肥  | 分量 |    |    |
|--------|------|-----|----|----|----|
|        |      |     | N  | P  | K  |
| 堆肥     | 5000 |     |    |    |    |
| マグクリン  | 120  |     |    |    |    |
| MMB燐加安 | 240  |     | 33 | 24 | 31 |
| 燐硝安加里  |      | 140 | 21 | 21 | 17 |
| 合計     |      |     | 54 | 45 | 48 |

- ウ 春収穫終了後、MLサイズの太さの茎を1m当たり5～6本立茎させる。立てる茎（親茎）は夏秋収穫及び翌年の春収穫の養分を蓄える役割を果たす。また、支柱やフラワーネットを活用し、倒伏防止を行う。
- エ 立てる茎が揃い、新たな芽（夏芽）が萌芽してきたら収穫を始める。

オ 追肥は、夏収穫開始後10日おきに10アール当たり燐硝安加里20~30kgを施用する。

カ 刈り取った茎葉は、ほ場外に持ち出して処分する。

## 8 収穫

(1) 茎の長さが28~30cmになったら地際から切って収穫する。

(2) 太いもの、細いものすべて収穫する。

(3) 春収穫は5月末、夏秋収穫は萌芽がなくなる10月上中旬まで続ける。

## 9 病害虫防除

(1) 最大の病気は茎枯病で、降雨により発生しやすい。6月から秋までに定期的に防除が必要となる。刈り取り後、バーナーで切り株を焼却し、できる限り菌密度を低下させる。

(2) その他、斑点病やジュウシホシクビナガハムシ、ヨトウムシ類に注意する。

(3) また、ほ場内にネズミ、モグラが侵入しないよう対策をする。